

若葉の季節

初夏の飼料作物の刈取適期

なかの

目に若葉山ほととぎす初鱈。すべてのものがのびのびとする初夏がやって来まして。

待ちに待った牧草や青刈作物もすくすく生長して刈取り出来るのも間近かです。一日も早く刈取りたいが刈取りもそれぞれの作物によつて適期があることを考えましょう。折角今日まで除草や追肥などに手間と費用をかけて来たのですから、一番良い時に刈取つて飼料として最も経済的であるようにしたいものです。

刈取適期は次のことを考えて決めます。青刈収量、栄養分、家畜の嗜好と消化率、跡作の関係、病虫害の発生状態、二番刈の収量、更に又乾草を作るためにはその時の天候まで考えなければなりません。なるべく収量が多く、栄養分も豊富で消化率が高く、家畜の嗜好も良いことが望ましい訳ですが、これ等の条件は作物によつてそれぞれ多少とも異なりますし、左右の経営特に他作物との輪作によつても左右されますから、これを考慮して一応考えた上で刈取期を決めます。一般に収量の多い時期に刈取る人は多いのですが、飼料として大切なのは中味の栄養分と消化率ですからこのことを今年もよく考えて刈取りましょう。養分の中で大切な蛋白質について、二、三の牧草の時期別の含量を見ますと次の通りで、時期によつて大差があることが判ります。

	ルーサン (生草)	チモンシー (乾草)	赤クロバ (生草)
草一尺位	46%	46%	46%
開花前	33%	33%	33%
開花中	33%	33%	33%
開花後	20%	20%	20%
結実後	17%	17%	17%

註 可消化純蛋白質の含有割合

一般に遅刈り(開花期以後)は草丈は高く重量も大きくなるので、ともすれば遅刈りとなり、極端な場合は種子をとるのではないかと思われる頃刈る人もありますが、これでは繊維が多く消化もわるく蛋白質などの養分も少く病害も出たり倒れたり、更に又二番の収量も少くなり、一文の得にもなりません。また逆に余り極端に若刈りすると、草丈は低く収量も少いという欠点はありますが、柔軟く家畜の嗜好や消化もよく肝心の栄養分は豊富で飼料としては価値が高いものです。そこで収量も栄養価も共に多い時に刈取りたいのですが、上に掲げた表でも一部別のように、いね科の牧草は開花直前から開花期までに、まめ科の牧草は半分開花頃から満開期までに刈取るのが、種々の観点から得という事が出来るようです。各作物によつて多少の差がありますが以下代表的な初夏に刈取る飼料作物の刈取り適期をしらべて見ましょう。

赤クロバ 蛋白質の含量は開花直前が最高で、可消化総養分は満開期に最大となりますが、開花後は繊維が多く病害の発生

の機会も多くなりますから、開花始めから半分開花期頃までに刈取るのが良いでしょう。一番刈がおくれると二番刈の収量が少なくなり、暖地では盛夏の候は夏枯れ状態となりますから、むしろもつと早刈りして蓄の出る前に刈取る方が有利でしょう。

ルーサン 暖地では赤クロバと同様に早刈をして七、八回も刈ることもありません。早刈の連続は生存年限を短くするようですが蛋白質は最も豊富です。次いで開花始めが蛋白質含量が多く、収量は満開期に最高となりますから開花始めから、半分開花までに刈取るのが良いようです。満開期以後は茎が硬くなり不消化部分が増加するので適当ではありません。

アルサイククロバ 大体赤クロバと同様に開花始めから半分開花期頃までに刈取るのが良いようです。アルサイククロバは病気も少く、何時までも青々として刈取り期間に幅がありますが、開花期以後は倒伏しやすくなり、この時期以後に刈取ると二番の再生が更に悪くなるので注意しなければなりません。

ラデノクロバ 開花始め頃から刈取り、あるいは放牧します。刈取り期間に幅があり、再生力も大きいのでこの点では大へん楽な牧草です。

スイートクロバ 開花前に刈取るのが良く、開花後は硬くなり再生も大へん悪くなります。一尺前後の頃からやや高刈りすれば柔軟く家畜の嗜好も良くなります。

クリムソククロバ 蓄の出はじめに刈取るのが良く、それ以後は茎が硬くなると同時に花の莖に生えている毛も硬くなつて消化や嗜好をわるくします。

青刈えんどう、ベッチ、大豆 これ等は開花盛期から、始めての若葉があらわれる頃まで刈取り適期です。何れも開花期をすぎると下葉が黄化脱落したり、硬くなつ

て嗜好がおちて来ます。

チモンシー 生草収量は一般に出穂揃(開花期)が最大、蛋白質含量もこの時期に多いから刈取適期といえます。蛋白質含量のみからいえば出穂前が多いが、過度の若刈りは刈取回数が増しても総収量はむしろ減るので結果的には得とはいえません。

オーチャードグラス 開花期に達すると急に木化して硬くなり養分も落ちて来ます。出穂始めから出穂揃いまでに刈るべきで、こうすれば二番の増収も期待出来ます。

ブROOMグラス 穂孕期が蛋白質含量最大で爾後減少し開花後は急に硬くなりますから出穂始めが刈取りの適期です。

ツールオートグラス、リードカナリグラス、ケンタッキート三一フエスクなどは何れも出穂後は急激に硬くなり、嗜好や養分が低下します。特に大切な葉が開花期をすぎると下の方から枯れますからその前に刈取るべきでありましょう。

イタリアンライグラス 穂孕期から刈始め回復力の早い性質を利用して数回刈るか出穂揃いとき一斉に刈るか、何れにせよ刈取期に幅のある牧草です。

青刈燕麦(オート) 開花中が蛋白質多く、爾後急に減少、更に葉の割合もへり、嗜好もわるくなるので出穂始めから穂揃いまでに刈取るのが良いようです。

青刈ライムギ 開花盛期に蛋白質含量が一番多いのですが、それ以後は急に硬くなり家畜の嗜好がわるくなりますから、早目に刈取始め穂揃いまでに刈終るようになるべきでしょう。

このほかレープもこの時期に刈ります。これも開花始めから刈るのが良い。皆さんがこれ等を適期に刈つてすべてが家畜の血や肉、あるいは乳となるよう祈る次第です。(雪印種苗上野幌育種場々長)